

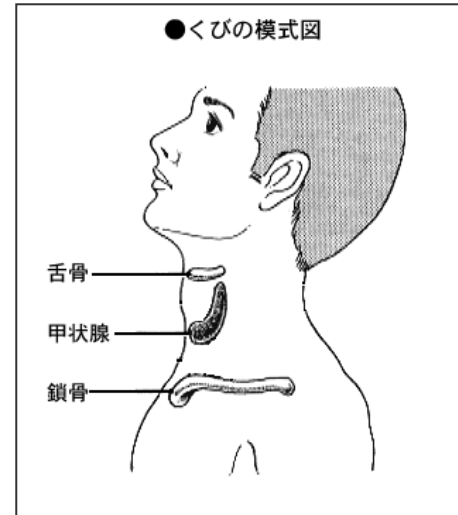


甲状腺の病気

甲状腺は前頸部の中央、のどぼとけの下にあり、通常は外から見えず触れることもできません。体の代謝を調節する甲状腺ホルモンを産生する重要な臓器です。

甲状腺疾患は頻度の高い疾患で、成人女性の10人に1人は甲状腺腫（甲状腺が大きい）があり、さらにその中の10人に1人が甲状腺ホルモンの異常があるとされています。甲状腺ホルモンの異常は大きく分けて『甲状腺機能亢進症』と『甲状腺機能低下症』があります。いずれも良性の病気で、薬等でコントロール可能ですが、放置しておくといろいろな合併症が出てきます。

今回はその中の『甲状腺機能亢進症』についてお話しします。



甲状腺機能亢進症

普段と違って甲状腺を過度に刺激する物質が血液の中に生じて甲状腺ホルモンが必要以上に作られている病気で、その代表はバセドウ病です。甲状腺ホルモンが多すぎると、心臓・肝臓・骨・目などに影響がでます。女性に多い病気です。

《原因は》甲状腺を刺激する物質がどうやって生じるのか、目の異常を起こす原因が何かいずれもまだ不明です。ある程度遺伝が関係していると言われています。

《症状は》甲状腺がはれます。甲状腺はのどぼとけの少し下にあり、腫れると首が太く見えます。動悸、息切れ、手足のふるえ、暑さに弱い、食べるわりに太らない、むくむ、などがみられます。これらは甲状腺ホルモンの過剰による症状です。目が突出したり、まぶたが腫れたりする人もあります。

《検査は》血液中の甲状腺ホルモン（FT4）、甲状腺刺激ホルモン（TSH）、甲状腺刺激物質（TRab）などを測ります。

《治療は》甲状腺ホルモンの合成を抑える薬を飲みます。

薬の副作用が出たり、効きが悪かったりした場合、放射性ヨード治療や手術をします。

《経過は》薬を始めるとやがて元のようになりますが、やめるとまた悪くなることが多いので、続ける事が大切です。1~2年間位薬を飲んで薬をやめられる人が約半数、残りの半数の人はずっと薬を飲み続ける必要があります。またいったん、薬を止めた人の中のまた半数は再発するので、完全に薬を止められるのは4人に一人位です。

《注意点》最も重要なのは、規則正しい通院・検査で適切な薬の量を決め、血液中の甲状腺ホルモンを正常に保つことです。

《妊娠は》治療しながら安全に妊娠・出産できます。逆に十分な治療をせず、甲状腺ホルモンが過剰な場合は流産や早産の危険が高くなります。